

# 道徳通信

野々市市立野々市中学校 令和2年 10月29日(木) NO. 5



前期期末テストを終えてから早2週間。各クラスで合唱練習を重ねてきました。いよいよ明日は合唱コンクールです。例年通りとはいかず、学年ごとの開催にはなりますが、実りの秋の名のもとに、ぜひ実り多き1日になるよう、クラスや学年で心をひとつにし、素敵な歌声をフォルテ中に響かせましょう。今回の道徳通信では、合唱にちなんだ内容をご紹介します。

## 3年生の授業「埴生の宿」

あるつらい事件に巻き込まれ、言葉や感情、すべての成長が奪われてしまった苑子。そして、そんな彼女をはじめはそっといたわるだけだったクラスメイト。しかし、担任の働きかけによってわずかずつではあるが苑子が前向きな姿勢を見せるようになったことで、クラスメイトは彼女の努力を理解し、一緒に合唱に取り組むことになる。そこから徐々に苑子が変わっていく。クラスの一員として。

### 授業の振り返り より

僕は苑子みたいな子がいたらどう接するのかを考えたときに、おそらく話の中に出てきた子たちと同じようにすると思う。合唱コンクールみたいに、その子の得意なことで自分の居場所を見つけてあげたり、優しくしたりすることで、(互いに)心を開くことを忘れてはいけないと思う。

合唱コンクールの後、苑子が明らかに変わったのは、今まで優しさで仕事とかを免除されたりして逆にクラスメイトとの距離があいていたけど、一緒に歌を歌うことでクラスのみんなが一丸となって距離が縮まったからだと思う。周りにそっとされている人は自己表現が苦手なだけだと思うから、一方的に距離を置くんじゃなくて、その人の気持ちをできるだけくみ取ろうという思いをもつことが大切だと思った。

合唱コンクールの後、明らかに苑子が変わったのは、今までクラスの輪の中に入れていなかったが、自分もクラスの一員として何かをすることができたからだと思う。また、苑子自身も皆のために何かしたいと思うようになったからだとも思う。

みんなで何かをやりとげる楽しさが分かったから、苑子が変わったのだと思う。(クラスメイトが協力してくれて)「自分もここにいていいんだ」と思えたと思う。

無理に何かをやらせるのではなく、できることから一緒にやるというのが本当の「支える」ということだと思いました。

「支える」というのは、友だちのことを思い、どうすれば良い方向に行くのかを考え、力を合わせて実行していくことだと思った。

# ～合唱コンクールに向けての取組の様子～

感染症対策と並行しながら合唱練習をがんばっています。



全クラスでクラス目標と個人目標を決める取組をしました。

## 【1年生】の個人目標より

- みんな団結して素敵な歌声を響かせよう！
- 練習から真面目に取り組み、心を一つにして、きれいな合唱を作っていこう！！
- 私はみんなで協力して楽しい合唱にしたいです。自分の力を発揮して最高のものにしたいです。



## 【2年生】の個人目標より

- 優秀賞や最優秀賞をとれるよう練習のときから気を抜かず、1人1人の力を合わせ、学年で1番の合唱にする。
- つられないように音程に気をつけて歌う！！全力を出し切る！！！！

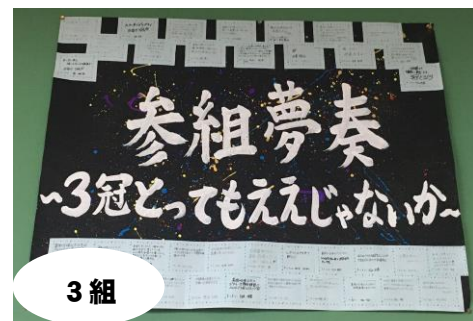
## 【3年生】のクラス目標より 素敵な掲示物が教室に！！



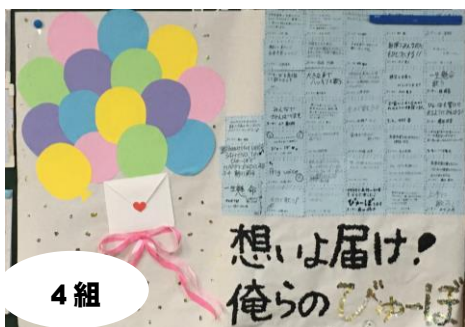
1組



2組



3組



4組



5組



6組